

# 続 ふるさとこぼれ話

## おおき 青木の観腸先生 20

酒井良清物語 学校医 8 (養護教諭とともに5)

観腸先生の随筆を読んでいると、学校保健と養護教諭に対する熱意が伝わってくる。随筆の要旨を紹介する。

「学校保健が学校教育上、重要であることは誰でもよくわかっているが、学校医の立場からすると、その熱意はまだ不十分である。まず学校長の学校保健への関心度と情熱が第一で、それをバックアップするのが養護教諭であり、学級主任や保健主事とともに活躍しなければならぬ。今のところ養護教諭はいつも小さくなって遠慮しがちで、学校保健委員会などの時間が思うように取れないのである。どうしても軽く見られる傾向があるようだ。しかし、学校保健は人間としての生命教育が中核であり、生命を大切にすることが児童生徒の心を豊かにするものと思う。児童生徒一人ひとりの心を目で見ることは難しいが、子どもたちの心の動きを教師として見る事ができれば、健康教育はどんなに素晴らしいものである。教育の営みは教師と子どもとの信頼関係が原点であり、心の触れ合いが大切である。養護

教諭は、単に児童生徒の健康だけでなく、心の問題や悩みを一緒に考え、できる限りその要望を満たしてやらなければならない。すなわち養護教諭は哲学を持つべきである」

観腸先生は、養護教諭を中心とする学校保健研修会を開き、養護教諭のあり方や希望、意見を発表し合った。10年間の記録を記す。

- ①昭和59年…養護教諭の役割
- ②昭和60年…養護教諭のあり方
- ③昭和61年…養護教諭シンポジウム
- ④昭和62年…養護教諭の主張
- ⑤昭和63年…保健主事と養護教諭の関係
- ⑥平成元年…養護教諭の主張
- ⑦平成2年…養護教諭の悩み
- ⑧平成3年…養護教諭のあり方
- ⑨平成4年…これからの学校保健
- ⑩平成5年…不応児童生徒の対応。

(つづく)



▲観腸先生の随筆集

## しまたかしの 芳賀の自然 39



### メスグロヒョウモン

チョウ目タテハチョウ科

写真提供=芳賀町自然に親しむ会 撮影場所:町内

分布=北海道～九州  
生息地=樹林周辺に発生し、原野や草原には少ない。  
発生=6～10月。暑い時期は夏眠する。(1回/年)  
食性=クリ・オカトラノオ・アザミの花を好んで吸蜜する。幼虫の食草は各種スミレ類  
大きさ=開帳70mm(羽を広げた最大値)  
特徴=雌雄で色彩や斑紋が著しく異なり、雄はヒョウ柄だが、雌は名前の通り黒く光沢のある青緑色を帯び、イチモンジチョウと間違えうほど。

### 編集後記

広報はが7月号

□もうすっかり夏ですね。

毎日汗をかきかき仕事をしています。

□そんな中、役場のグリーンカーテンがすくすく育ってくれています。この広報紙が出るころには、少しは暑さ除けになってくれるかな？

□また、電気を使わないで涼しくなるために、風鈴を下げて音色で涼をとるのもいいそうですよ。私も買ってこようと思っています。(K)



▲東水沼

◎編集 芳賀町広報広聴委員会

☎028(677)6032 ✉kouhou@town.haga.tochigi.jp

◎発行 芳賀町企画課

栃木県芳賀郡芳賀町大字祖母井1020番地

◎芳賀町ホームページアドレス

http://www.town.haga.tochigi.jp

④芳賀町の携帯サイトはコチラから➡



この印刷物は、ESPAのゴールド基準に適合した地球環境にやさしい印刷方法で作成されています  
ESPA: 環境保護印刷推進協議会  
http://www.espa.com